



7 乳首の皮膚炎

とにかく乳首がかゆくなる
アトピーやアレルギーも引き金に

年齢や時期に関係なく、乳首がただれてかゆくなるのが乳首の皮膚炎。アトピーによる湿疹やブラジャーの素材に対するアレルギー、汗によるかぶれなどが主な原因で、悪い病気である可能性はほとんどない。ただ、ごくまれに、乳房の上皮にがん細胞が転移した、バジェットという乳がんであるケースも見られるので、かゆいだけだからと放置しない。

治療法

数日間、ステロイド軟膏を少量塗ることで、かゆみやただれは治まる。注意すべきなのは、ステロイドを塗ってもかゆみやただれが治まらないとき、バジェットは乳がん全体で1%にも満たないが、この場合はバジェットの可能性が高いので、すぐに病院へ行って。

ピルの服用は 乳がん検診の後に

避妊や生理不順に有効なピルにはエストロゲンが含まれているため、乳がんがある人が服用すると、がんを育ててしまうことも。服用開始前には乳がん検診を受けること。「長期服用する場合は必ず定期的に乳がん検診を受け、医師と相談して休薬するなど、安全で賢い服用をおすすめします」(島田さん)

5 乳腺のう胞

生理前に大きくなる
乳腺の中の水が溜まった袋

乳腺症の症状のひとつで、乳腺の中に水が溜まった袋ができて、しこりとして感じるもの。乳腺症と同じく、生理の前に大きくなるが、生理がきて、終わる頃には小さくなることもある。自分でしこりを触っただけでは乳がんとの区別が難しいため、しこりに気付いたら乳がんではないかどうか、病院できちんと検査を受けるのが鉄則。

治療法

のう胞が乳がんか超音波検査ですぐ診断することができ、のう胞であれば治療の必要はない。ただし、痛みがある場合やしこりが大きくなって気になるときは、注射器などで中の水を吸い取って小さくすることもできる。その場合、生理の前に、また水が溜まることもある。

6 乳腺炎

授乳中に多く見られる
細菌感染が原因の病気

乳首の小さな傷などから細菌が入って起こる病気で、多くは授乳期間に発症する。乳房が赤く腫れて痛み、膿が溜まったり、しこりができたりするのが特徴。乳輪の下に痛みや膿がある場合は、乳輪下膿瘍といって慢性化することもある。授乳期間以外で腫れや赤みがあり、痛みがあまりない場合は、炎症性の乳がんの可能性もあるので要注意。

治療法

抗生物質で感染や炎症を抑える。炎症を抑えるために冷湿布をすることも。また、膿が溜まっている場合は、乳房マッサージを出すほか、注射器で吸引したり、切開して出す場合もある。授乳期間中に乳腺炎になった場合は、医師の診断のもとで授乳することになる。

3 葉状腫瘍

基本的には良性腫瘍だが
まれに悪性化することもある

乳腺線維腺腫とよく似た腫瘍で、しこりが2〜3カ月で急に大きくなる点が、線維腺腫とは異なる。ほとんどの場合が良性だけれど、まれに悪性化するケースや、良性と悪性の判断が難しい場合もあるため、針生検での診断が必要。30代の女性に多く見られるものの、すべての年代でかかる可能性があるため、20代女性も気を付けたい。

治療法

葉状腫瘍と診断された場合は、良性でも手術でしこりを切除することが多い。切除してもまれに再発する可能性があるため、完全にしこりを取り除くことが重要。乳がんか似たものかもしれないとき、放射線治療やホルモン療法などはまったく効果がないのが特徴。

4 乳腺症

おっぱいの病気でも多い
ホルモンによる乳腺の変化

乳腺の病気の中で最も多く見られるもので、30〜40代の女性に起こりやすい。原因は女性ホルモンのバランスが崩れ、エストロゲンが過剰に分泌されて乳腺が変化し、乳房の痛みや腫れ、粒状のしこりなどが生じる。生理前に症状がひどくなり、生理が終わると症状が弱まることが多い。乳腺炎と混同されがちだが、まったく違う病気。

治療法

女性ホルモンの影響による生理的な変化なので、基本的に治療の必要はなく、心配はいらない。しこりができる場合も、生理前は大きく感じられても、生理が終われば小さくなり、痛みもやわらかくすることがほとんど。ただし、痛みなどが強く、症状がひどい場合は投薬治療を行うこともある。



乳房の病気

良性の乳房の病気 いろいろ

良性腫瘍の場合、しこりは硬くても、表面がスベスベしていることが多い。

[可能性のある病気]

- 1 乳腺線維腺腫
- 2 乳管内乳頭腫
- 3 葉状腫瘍

しこりが
硬い

しこりが
ある

生理前にしこりが大きくなるなら乳腺症。しこりに水が溜まっているようなら、のう胞も。

[可能性のある病気]

- 4 乳腺症
- 5 乳腺のう胞

しこりの状態が
変わる

生理前にひどくなるようなら乳腺症だけれど、膿が溜まっている場合は乳腺炎の可能性もある。

[可能性のある病気]

- 4 乳腺症
- 6 乳腺炎

張りがあったり
痛む

痛い

とにかくかゆくて仕方がないときは、アレルギーやアトピーが引き金になっていることも。

[可能性のある病気]

- 7 乳首の皮膚炎

ただれて
かゆい

1 乳腺線維腺腫

コリコリした腫瘍ができる
10代後半から見られる病気

10代後半〜30代と、比較的若い女性に多く見られる良性腫瘍。表面がなめらかで、硬くコリコリした痛みのないしこりができ、しこりがよく動くのが特徴となっている。自分で気付く場合、しこりの大きさが2cmを超えている場合が多く、触診だけではがんとの区別が判断しにくいので、気付いたらすぐ病院でがんの検査を受けること。

治療法

しこりが小さい場合は切除の必要はない。ただし、しこりが急になった場合や、痛みが強いつきなどは、しこりの部分だけを切除することも。手術をしなくても、閉経を迎える頃には少しずつ小さくなるが、自然に腫瘍が消えることはない。

2 乳管内乳頭腫

母乳を運ぶ乳管にできる
良性のポリープ

乳管とは、出口である乳首まで母乳を運ぶ管のこと。この管にできる良性のポリープが乳管内乳頭腫で、症状としては、やや硬いしこりができたり、乳首から血の混じった分泌物が出たりする。基本的には良性の病気とはいえ、がんとの区別が自分では難しいため、症状に気付いたら、病院で詳しく検査する必要がある。

治療法

乳管内乳頭腫と診断された場合は、長期にわたる経過観察と、定期的な乳がん検診が必要になる。がんにならないために切除して予防する必要は必ずしもないけれど、しこりがたくさんできる場合もあるので、医師とよく相談して治療法を決めよう。

代表的なおっぱいの病気を解説